

いすみ

第12号

2005年7月1日発行

(題字:國松 明日香氏)

本郷新彫刻シリーズ 12



「鳥を抱く女」

(札幌市中央区宮の森緑地
=中央区宮の森3条12丁目)

本郷新が小学校4年生の時、鶏を抱いて遊んでいる女の子に出会った。

羽ばたこうとしながらも少女の胸に首を寄せる鶏。それを抱く少女の温かさ。

その印象が強く残り、生涯に14点の「鳥を抱く女」の作品を作った。

(撮影 仲野三郎会員)

目 次

本郷新彫刻シリーズ 12 「鳥を抱く女」	表紙
卷頭言	永野光一 3
感銘与えた「生誕 100 年本郷新展」	栗村玉恵、高橋昌宏 4
平成 17 年度友の会総会・シンポジウム開催	5
野外彫刻を洗っちゃった!	斎藤美年子 5
本郷新先生ご夫妻の思い出	柏村 知子 6
モエレ沼グランドオープン記念イベント	6
特別寄稿「わだつみ像」余聞（中）	小尾 陞 7
ギャラリーシリーズ 8 「魚々子」	原 典夫 9
抜海の目「野外彫刻の清掃とその評価」	9
彫刻美術館と懇談会を開く	10
彫刻美術館「夏一夜音楽会」	10
17 年度友の会役員名簿	10

札幌彫刻美術館展覧会・行事予定（7月—9月）

本 館

「馬と少年シリーズ」 —8月 21 日まで

1960 年代に制作した「馬と少年」のテーマによる作品を展示。

「第 12 回本郷新賞 受賞記念彫刻展」8月 27 日から 10 月 10 日まで

記念館

「海外旅行の思い出」 —8月 21 日まで

本郷は 1952 年から 53 年と 1956 年の 2 度、海外旅行をしている。そのときに描いた素描を展示。

「本郷新の野外彫刻」 8 月 27 日から 10 月 10 日まで

これまで本郷新賞を受賞した作品のエスキースや歴代作家の作品、資料などを展示するほか、本郷の野外彫刻のエスキースなどを展示する。

散策と美術鑑賞の会

7 月 30 日 ステージⅢ 宮の森彫刻フィールドワーク

9 月 24 日 ステージⅣ 秋の三角山

教育普及事業

▽ 7 月 8 日 市内彫刻めぐり ▽ 7 月 22 日 サマーコンサート ▽ 8 月 2、3 日 子ども（小学生）造形教室 ▽ 8 月 4、5 日 子ども（中学生）造形教室 ▽ 9 月 14、15 日 道内めぐり ▽ 9 月 23 日 宮の森サンクスデー ▽ 10 月 1、2 日 造形教室（テラコッタ）

巻頭言

43日間で5トンの花崗岩を彫った！！

彫刻三昧の米子彫刻シンポジウム

永野 光一(彫刻家・江別市在住)

2004年7月から8月にかけて鳥取県米子市で開催された米子彫刻シンポジウムに参加し、「見つめる」というテーマで5トンの花崗岩を彫ってきました。会場の湊山公園での43日間は暑い日が続きましたが、彫刻三昧で充実した夏をすごすことができました。作品は無事完成し、湊山公園入口の歩道の横に設置されています。

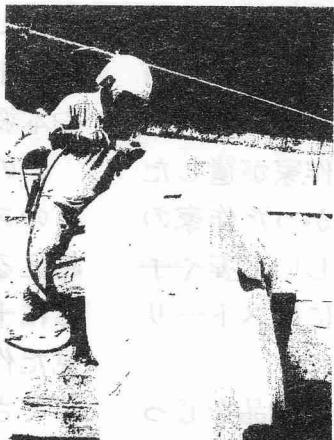
今回9回目になるシンポジウムの作家はほかに、西巻一彦氏(神奈川県)、斎藤和子氏(千葉県)、近田裕喜氏(島根県)でした。皆さん石彫作家です。会期中には作家が講師になり、小中学生の彫刻教室も開かれました。

米子をはじめて訪れたのは2月に行われた下見の会の時でした。米子の町の落ち着いたたたずまいは、初めて訪れたにもかかわらず安心感を与えてくれました。資料によると人口は約15万人、鳥取県の西に位置し、山陰のほぼ中央。北に日本海、西に汽水湖の中海、東に国立公園大山(伯耆富士)と自然に恵まれた環境の町です。紀元前からの歴史を持ち、弥生時代から大陸との交流があったそうで、江戸時代には城下町として繁栄したとのことです。弓ヶ浜半島の東端には米子の奥座敷、皆生温泉があり、私も湯につかりくつろいできました。この

一帯は「日本の朝日100選」などに選ばれているそうです。また、地元の方々にご馳走していただきました海の幸と山の幸が美味でした。

米子彫刻シンポジウムは私の友人である彫刻家、井田勝巳氏(東京造形大学教授)と地元の芸術文化愛好家により、1988年に立ち上げられた隔年開催の歴史あるシンポジウムです。市内に設置されている多くの彫刻を見ながら散策しましたが、文化に対する市挙げての取り組みを感じることが出来ました。最後に第1回から第8回までの参加作家を紹介します。私の先輩、知人、友人が多数参加しています。

▽1988年、林良一、清水洋一、中岡慎太郎、山谷圭司、新谷一郎▽90年 須藤博志、鈴木武右衛門、森亮太、井田勝巳、▽92年 小林亮介、寺田栄、横山徹、酒井良▽94年 富田憲治、田中毅、前川義春、オダ・ショエラー(独)、▽96年 氏家慶二、登坂秀雄、百瀬啓一郎、ロバート・シンドルフ(オランダ)、▽98年 薮内弘、岡本敦生、大井秀規、ジャン=フランソア・ドゥムール(仏)▽2000年 田中等、西川淑雄、村井進吾、林宏▽02年 西村文男、高濱英俊、平井一嘉、菱田波(敬称略)



彫刻制作中の筆者

「素顔の作家が遺したもの」(彫刻美術館会場)



「『生きる』をつかんだ彫刻家」(芸術の森会場)

感銘与えた「生誕 100 年本郷新展」

戦後の具象彫刻界を代表する本郷新生誕 100 年記念展が 5 月 21 日から 6 月 19 日まで札幌彫刻美術館と芸術の森美術館の両会場で開催され、訪れた多くのファンに改めて感銘を与えた。記念展を見た 2 人の会員にその印象を寄せていただいた。

本郷の温もりを感じた作品群

栗村玉恵(会員)

宮の森の「本郷新彫刻美術館」は私の家から散策路を歩いて 15 分。身近に感じて何回か訪れてはいた。

このたびの企画展「素顔の作家が遺したもの」は、今まで汲み取れなかつた作家の人間性に触れられたことが嬉しい。妻や子どもたちの作品などに。彫刻にはストーリーがあるという。

芸森の広い会場では、多くの作品をじっくり拝見した。造形表現の多様さに驚く。

テラコッタの素朴な温もりに引かれる。

「無辜の民」の、あの底深い哀しみは胸を突く。

佐藤忠良がビデオで語っていた。本郷新のひらめきと並々ではない行動力を一。

芸術の世界を生き、生き抜くことを願つた本郷新は 74 歳で逝った。

「生誕 100 年 本郷新展」は、私の胸の裡(うち)をゆさぶる。

このイベントを盛り上げ、成功させた人たちにありがとう。

「芸術は愛なり」という。

本郷新よ、永遠なれー。

魅了された空間の中の造形

高橋昌宏(会員)

住まいが宮の森のこともあるって、札幌彫刻美術館友の会に入会し、札幌彫刻美術館や本郷新記念館を数回訪れたことはある。

このたび、芸術の森美術館で見た作品はそのスケール、数において想像をはるかに超えるものであり、本郷新ファンを魅了するに十分なもののように思われた。過去に見た作品でも広い空間に置かれることによってさらにその魅力が倍加したようにも感じられ、この展覧会を企画したスタッフに感謝したい。

世田谷美術館館長酒井忠康氏の記念講演会は、本郷新の彫刻へかける思い、日本の近代彫刻の発展の先駆者として活躍したこと、佐藤忠良から見た「本郷新像」など興味ある内容が盛りだくさんであった。聴衆約 120 名のうち、35 名が友の会関係者であったことにも意義があり、酒井氏から、最後に「世界で彫刻の国と言えるのはイタリアと北海道だけ」のリップサービスまで飛び出ましたが、眞に彫刻の国と言われるために本郷新 100 年記念展を絶好の機会として、友の会が彫刻の魅力を広く道民にアピールすることも大切なことと感じられた。

平成 17 年度友の会総会・シンポジウム開催

初のシンポ「野外彫刻のアートツーリズム」をめぐり提言

平成 17 年度彫刻美術館友の会の総会と記念シンポジウムが 6 月 11 日、札幌・中央区の札幌市教育文化会館で開かれた。開会に先立って浦口鉄男前会長（05 年 4 月逝去）と木下啓二会員（04 年 12 月逝去）の冥福を祈って黙祷を捧げた。

総会には会員 38 人が出席、橋本信夫会長が「総会後行う初めてのシンポジウムの開催など本年度も腰の強い活動に取り組みたい」とあいさつ、議長に原寿子会員を選出、16 年度事業報告、決算報告、17 年度事業計画、予算案などをそれぞれ満場一致で可決した。新年度事業計画では前年通り、会報「いずみ」発行、ホームページの充実、会員交流、作家交流のほか、新年度は特別事業として「碓山美術館」（長野県）ツアーの実施などが盛り込まれた。また、新たに原子修、國松明日香両氏の顧問就任など役員選出を行った（役員名簿は最終面に）

引き続き本郷新生誕 100 年記念「野外彫刻とアートツーリズム」のテーマで初のシ



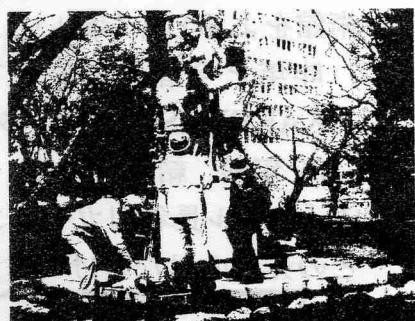
ンポジウムを行った=写真=。道立近代美術館の水上武夫館長が「アートツーリズムの実践者として」の演題で基調講演を行い、自ら企画した米東部海岸美術館巡りの実践から、「アートツーリズムはただ美術館を回るだけでなく、食や風景など豊富な情報を探り込むことが大切」と強調した。こ

の後、本郷新ゆかりの画家・柄内忠男さんが本郷との思い出をユーモラスに語り、その人柄をしのんだ。また、彫刻家の山谷圭司さんは戦前のヨーロッパで構想された「パリからモスクワへの彫刻への道」を紹介、彫刻家にとってのアートツーリズムの考え方を説いた。道情報大の斎藤一助教授も本郷新の彫刻写真をウェブページに取り入れて活用する北海道スカルプチュアーウエブについてスライドを使って分かりやすく解説した。司会は高橋淑子会員が務めた。終了後、会場のレストランで懇親会が開かれ、講師らと交流を深めた。

野外彫刻を洗っちゃった！

美術館主催で清掃作業

札幌彫刻美術館主催による野外彫刻清掃作業が 5 月 11 日に行われ、ボランティア 16 人が JR 札幌駅前の「牧歌の像」と道庁前の「北の母子像」を 2 班に分かれて清掃、最後に大通公園の「乙女の像」を全員で清掃した=写真=。



作業は先ず、タオルで水ふきし、台座も洗った。頑固な汚れや土ほこりや鳥の糞はブラシやへらで汚れを落とし、最後にタオルで全体をカラ拭きし、つや出しをした。どの像も初夏の光に輝くように美しくよみがえった。

（斎藤美年子副会長）

本郷新先生ご夫妻の思い出

柏村 知子(会員)

かつて札幌創成川沿いにあった、ハリストス正教会の鐘が響き、本郷夫妻の立会いで、花婿白石齊と娘孝子が結婚し、東京へ旅立ったのは37年前のことだった。当時、先生は世田谷のアトリエから京王線に乗って白石齊の多摩桜ヶ丘のアトリエに通い、たくさんのテラコッタや絵皿を制作していたらしい。

陶芸志望の私の妹、中村照子の窯を据えに来たのが齊との縁で、孝子は大学在学中ゆえ、夫は反対したが、高名な本郷先生が仲人と聞いて承諾した。

本郷先生との縁がそうさせたのか、白石齊は一般の陶芸家と違って、公共的な場に陶を使つた作品を制作し、孝子は絵の個展を催し、子育てと両立していた。毎年暮れには世田谷のお宅を二人で訪れて、ご夫妻に温かくもてなされ、「これは、札幌のお母様から頂いたのよ」と、手織りのひざ掛けをいつも愛用されていたそうだ。

宮の森にアトリエを建てられたのもつかの間、先生は永眠。隣接して彫刻美術館がオープンした。1986年の夏には「手と土への誘い」—白石齊展一を、前庭も使って催していたとき、重子夫人がカタログに華麗なる推薦文を書いてくださった。

また、夫人が来札された時、何回かお誘いの電話を頂いた。道庁別館「エチュード」の小品のあるラウンジ隣のレストランで、西窓の山並みを眺めながらおしゃべりが弾んだ。

『嵐の中の母子像』のモデルになった時はね…屈めた腰に右腕を後ろに回し、左手は赤児の代わりに座布団を巻いて、抱きしめて…と。

未亡人になられても、何時もオシャレに気を使い、美しく結い上げられたおぐしに見とれながらの、楽しい一時だった。

ある冬の日、ズシリと重い「本郷新彫刻集」(求龍堂)が届き、お礼の電話をすると、「美術館をよろしくお願ひしますね」とのか細い声が、最後のお別れとなつた。

昨年と今春、イタリアのラヴェンナに招かれて、アカデミアで制作した齊の作品「KAKEHASHI」が、ダンテの墓隣に設置されることになった。

37年前、結婚式の後、本郷先生の大好きな石狩浜を見下ろす、春香山のアトリエ横にある「ホテル長谷川ガーデン」での披露宴で、「結婚によって、いよいよ作品が華やぐように」との先生のはなむけの言葉が、今にも甦つてくる。

モエレファンクラブ 札幌モエレ沼グランドオープン記念イベント

「坂田栄一郎 天を射る」展 写真50点を通して人間と自然、環境問題を表現

5月28日—8月28日まで 会場: ガラスのピラミッドで

「モエレ沼からうたがうまれる」 詩人・谷川俊太郎と長男でピアニストの谷川賢作

が一緒に詩や歌を作るワークショップやピアノコンサートなどがある。

7月31日午後4時30分(4時開場) ◇詳細は同ファンクラブ☎011-219-3442まで

本郷新生誕 100 年記念特別寄稿

「わだつみ像」余聞 <中>

のぼる
小尾 陞 (会員)

4 北大における建設運動と「わだつみ像」

大学「紛争」で春香山別荘へ設置

北大における「わだつみ会」の活動は中央と同様に途絶えていたが、1967年12月8日に開催された「不戦の誓い」集会を機会に学生の組織が再発足している。しかし、翌68年8月の会員数はわずかに7人に過ぎなかった。(会員外で活動に参加してくれる学生は多数いたとのことであるが)

学生の活動と平行して教官の中にも運動が起り、戸谷富之教授を代表に、全学的に総数59名(うち11名は実行委員を兼務)の教授・助教授を発起人として「北大わだつみ像建設期成会」が結成された。事務局は教養部人文系教官資料室に置かれ、事務局長の任には井上泰男先生があたった。募金目標は180万円で、10月21日の学徒出陣記念日ごろをめどに、像を建設し、それと共にこれまで一度も行われていない北大出身あるいは在籍であった戦没学生の慰靈祭をかねた除幕式を行うというものであった。

戦没者の調査では、人数は予想された以上に多く、300名以上にのぼるものと思われたが、各学部の同窓会でも作業が行われており、期成会とは別に各学部合同の慰靈祭の動きがあることより、期成会としては資料の提供その他の面でそれらに側面的に協力していくこととなつた。

募金活動の面では、学生たちは68年の終戦記念日8月15日に東京の数寄屋橋で「わだつみ会」より鶴見俊輔(同志社大教授)、安田武(評論家)、山田宗睦(評論家)の3氏の援助を得て街頭に立っている。また、同日札幌でも4丁目十字街で街頭募金を行っている。

募金は10月末までに、街頭関係を除いて、千名を超える方たちより約120万円が集約され、その中には多数の学外の同窓生からのもの、あるいは北大とは何も関係のない一般の人からのものも含まれていた。特に、8月15日にNHKで「わだつみ像」建設について本郷新と井上先生の対談があり、反響を呼んだことである。

北大は本郷新が北海中学時代、幾度となく写生に通ったゆかりの場所でもあり、ふるさと札幌の北大構内に「わだつみ像」が建つことを本郷新は大変喜び、当初の予定時期に合わせて像と台石が制作された。

しかしながら、北大当局への寄贈手続きの遅れ、積雪期に向かっての基礎工事の技術的

問題を考えると来春を期す方がよい、そうなれば同窓会の慰靈祭の準備も進み、像の建設が時期的に重なり合うならばその方が望ましいとのこととなつた。

ところが、北大当局も東大にならつたのか、設置を許可しなかつた。期成会では中央ローン（正門と農学部の間にあってクラーク先生の像が建っている所）の一角、クラーク会館の前あたりに設置を考えていたとのことだが、東大の場合と同様に像は行き場を失ってしまった。

そうこうしている間に、次項に記す通り、立命館大で「わだつみ像」への蛮行、破壊事件が起つた。それより先、北大でも内的直接理由なしに、69年4月10日の体育館での入学式が全共闘系学生による建物封鎖により妨害され、やむなく分散入学式となつてしまつた。そしてそれ以後、「反日共系」と言われる各派学生集団はヘルメットをかぶり、ゲバ棒と呼ばれる角材や鉄パイプで武装し、事あるごとに自分たちに同調しない者には暴力で対応し、重傷者も出るなど、学内は今では想像もできないような異常な状況となつてしまつた。

このような情勢のため、「わだつみ像」はやむなく春香山の本郷新の別荘の一角に設置し、そこで除幕式を行うこととなつた。式は暴力学生による襲撃破壊を警戒し、6月9日、関係者にしか知らせず、内輪の会として行われた。道内、東北、関西からの遺族、友人、期成会の委員ら30人が集つた。戦没学生の母親が引き幕を行い、友人の一人は失つた友の名を一人ずつ呼んだ。花輪でいっぱいになつた「わだつみ像」。「しみじみとした、いい会でした」と出席者の一人が語つたことが伝えられている。

募金額は1,380人からの1,428,483円と報じられており、像の建設年月は当初目指した68年10月のままのプレートが台石にはめられている。

こうしてどこにあるかも限られた人にしか知られぬまま「わだつみ像」は石狩湾を望む山腹に、10年間もひつそりと、訪れる人もない状態で、本郷新が宮の森に新しいアトリエを構え、そこに移される79年9月まで置かれることとなつたのである。本郷新が「北大構内に建てるこを願つて制作したが、何も急ぐことはない。皆さんに喜んで受け入れてもらえる日が来るまで、50年でも100年でも、私の手元に置いておくつもりです」とその頃語つたことが伝えられている（昭和54年10月31日付「朝日新聞」道内版）。

80年に彫刻美術館がオープンするに際し、本館入り口に移され、ご存知の通り美術館のシンボル的存在になっているのが、この像なのである。現在、期成会は実質的には存在していないが、像は期成会からの寄託という形となっている。心ある人はいつの日かこの像を北大構内に移設し、天国にいる本郷新を喜ばすことを願つているのである。

（以下次号へ続く）

◇ おわび 前号（11号）で小尾陸さんのお名前の読みを「たかし」としましたが、「のぼる」の間違いでした。また、14ページ上から15行目「誇りと悲しみ」は「怒りと悲しみ」のミスパンチでした。おわびして訂正します。筆者に多大なご迷惑をおかけしました。

ギャラリーシリーズ 8

「METAL ART FACTORY」魚々子

金属を素材とする造形作家の作品を展示販売する工房が昨年12月、札幌・北区にオープンした。

店名の「魚々子」(ななこ)とは金属工芸に使う「タガネ」という道具の名。札幌在住の十数名の作家によって設立された。かつてわが友の会が石狩市高岡のアトリエを訪問した佐々木けいしさん、川上りえさんご夫妻が有力な会員であることを知り、急に身近なものに感じた。

古い住宅を改装した工房1階の2間に、小型の金属作品がたくさん並べられている。大型の作品が多い佐々木さんと川上さんは、ここでは鉄、銅、アルミなどの小型のオブジェや大型作品のミニチュアなどを出品している。他の作家からは、銀の指輪やペンダントなどのジュエリー、錫(すず)の徳利やぐい呑み、一輪挿し、銅の表札や茶筒、マグカップ、ステンレスのスプーンとフォーク、鉄の時計やキャンドルホルダーなどなど、小物の手作り作品が多数出品され、ところ狭ましと、並んでいる。いずれも価格がついており、数千円台のものが多いようだが数万円のものもある。

北海道には金属加工の産地や金属工芸の伝統もないのに、金属アートにはなじみが薄いが、ここに並んでいる作品を見ていると、素材は硬く冷たい金属でも、何か温かみのある楽しい雰囲気が感じられる。多くの市民がこの工房を訪れ、金属アートに親しみ、工芸作家をサポート出来れば大変良いと思う。

(原 典夫・会員)

場所：北区北17条西6丁目20 tel.708-7754

営業時間：木、金、土、日(11:00~20:00)

抜海の目

野外彫刻の清掃とその評価

彫刻とは文字通り彫(ほる)と刻(刻む)と書き、多くの場合、無機質材料から作られる。

木や布といった有機質の作品は粉塵、風雨に弱く、その寿命は短い。しかも、耐久性、耐候性の無機質材料の作品でも設置後の維持管理によってその外観は著しく異なる。鳥害、粉塵、凍害などによりわずかの間に見る影もない姿になり、再生不能な場合もある。

設置した状態を維持するのは難しいが、それを支えるのは日常の管理で、その材質に応じたきめ細かい手入れがあつてはじめてその輝きを失わないものになる。

札幌には全道の約五分の一、400点近くの野外彫刻があるが、手入れが不十分で放置されたのかと思われる作品もある。

今回の美術館の清掃は本郷新の作品だけであったが、設置者、所有者などの枠を乗り越えて実施したことは評価できる。だが、たまたま百年事業の一つとして実施しただけでは不十分ではなかろうか。

道、札幌市は現在の厳しい経済状況の活路を観光に見出そうとしている。にもかかわらず、札幌市の表玄関であるJR札幌駅前の「牧歌の像」がこの春先、案内板がはがされ、像が汚れた状態で放置されていたという事実をどう考えればいいのだろう。

札幌彫刻美術館はただ単に本郷新記念館であつてほしくない。札幌の名を冠した美術館の名にふさわしく、本郷新の作品にとどまらず、札幌市内の全作品に目を配り、維持管理にも対応できる美術館であつてほしい。

話し合い継続に期待して

札幌彫刻美術館と懇談会を開く

札幌彫刻美術館と友の会との懇談会が5月14日、美術館近くの中央区宮の森の明和会館で開かれた。

館側から藤島積理事長、三輪望館長らが出席、友の会から橋本信夫会長、斎藤美年子副会長、仲野三郎、野崎泰男会員ら9人が参加した。館側から日ごろの美術館活動についての説明などがあり、館と友の会の活動の在り方などについて意見交換を行い、こうした場を今後も継続することについても話し合った。

彫刻美術館で「夏一夜の音楽会」

札幌彫刻美術館は昨年に続いて今年も7月22日、美術館のギャラリーと彫刻庭園で「夏一夜音楽会」を開く。

道などが行うカルチャーナイト協賛文化プログラムとして、中央区在住の市職員を中心としたアマチュア音楽家が出演し、夏の夜のひと時を彫刻美術と音楽を同時に鑑賞してもらう。札幌市宮の森まちづくりセンターとのタイアップ。

7月22日午後6時から、4ステージでクラシック小品、映画音楽、ジャズスタンダードなど親しみやすい曲を演奏する。

問い合わせは宮の森まちづくりセンター☎011-644-8760まで。

編集後記

12号をお届けします。11号は本郷新生誕100年記念特集号として大幅増ページとなりましたが、今号から通常のスタイルに戻りました。6月21日まで札幌芸術の森美術館と札幌彫刻美術館の両会場で開かれた「生誕100年本郷新展」を見ての印象記を2人の会員にお願いしました。なお、「本郷新のちょっといい話」は休ませていただきました。

コラム「抜海の目」に日ごろ思っていることを書いてみませんか。無署名で結構です。500字程。投稿大歓迎です。

情報欄「友の会便り」へも声を掛けてください。(大内)

17年度友の会役員名簿

藤島 積	顧問	留任
寺山 敏保	顧問	留任
前川 一彦	顧問	留任
三輪 望	顧問	留任
原子 修	顧問	新任
國松明日香	顧問	新任
橋本 信夫	会長	留任
斎藤美年子	副会長	留任
仲野 三郎	副会長	再任
野崎 泰男	事務局長	新任
原 寿子	幹事	留任
榎本 真澄	幹事	留任
三上 正一	幹事	留任
岡本 憲子	幹事	留任
高橋 淑子	幹事	留任
吉田 修子	幹事	留任
大竹 明子	幹事	留任
鈴木 敏明	幹事	留任
佐々木保枝	幹事	新任
大内 和	幹事	新任
濱 久子	監査	留任
高津多香子	監査	留任

彫刻美術館友の会 会報「いづみ」No.1 2

2005年7月1日発行

〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目
財団法人札幌彫刻美術館内

Tel・fax: 011-642-5709

発行人 濱 久子

編集委員の連絡先: 電話とファックス

斎藤美年子: 011-643-7246

濱 久子: 011-893-5212